

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 30 日作成)

委員会名	農村エコシステム小委員会	主 査 名：沼野夏生
所属本委員会 (所属運営委員会)	農村計画委員会	委員長名：藤本信義
設 置 期 間	2002 年 4 月 ~ 2006 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>人間活動によって支えられる農村エコシステムの全体像の解明、特に集落域におけるエコシステムの全体像の解明、農村エコシステムを持続的に維持するための計画論の確立等。</p> <p>上記のことを明らかにするために、広く公開研究会や現地研究会を開催する。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>主査：沼野夏生(東北工業大学)</p> <p>委員：伊藤春樹(聚文化研究所)・系長浩司(日本大学)・井原満明(地域計画研究所)・浦上健司(インテージ)・大野啓一(横浜国立大学)・加藤仁美(九州大学)・川嶋雅章(明治大学)・栗田和弥(東京農業大学)・斎木崇人(神戸芸術工科大学)・瀬沼頼子(昭和女子大学)・中村 攻(千葉大学)・橋本忠美(農村・都市計画研究所)・藤沢直樹(日本大学)・守 隆(リバーサイドコーポレーション)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2003 年度予算	200,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	<p>9 月 6 日(土)：中部大学 10 号館、参加者 3 名</p> <p>10 月 19 日(日)：東北工業大学 1 番町ロビー、参加者 5 名</p> <p>他に通信会議を 7 月 31 日に行った(委員公募結果、秋季研究会について)</p>
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>農村エコシステムの持続的維持の計画論にエコミュージアム運動を位置づけるための研究会を企画し、実施した。この企画は農村計画本委員会に採りあげられ、秋季研究会として開催された。NPO 法人朝日町エコミュージアム協会との協力による山形県朝日町での現地研究会であり、会員 15 名、登録メンバー 0 名、会員外 7 名、学生 9 名、合計 31 名の参加があった。会員外参加者の中には大変有意義だったという評価があり、今後もこうした現地での研究会を幅広い参加を得て進めることは、学会内外の研究交流を図る上でも有効と考える。</p> <p>同研究会の論文・資料集を、学会発行の印刷物としてとりまとめた。</p> <p>委員会 HP アドレス：</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>エコミュージアム運動については、昨年度末の委員会で今年度重点的に取り組む事項としており、活動計画に沿った一定の成果が得られた。</p> <p>しかし農村エコシステムの計画論の構築には多くの検討課題があり、活動のペースをあげるとともに相互の関連性を考察し、それらを記録として残していく必要があるが、財政面や活動的メンバーの少なさなどから十分とはいえない。</p>
その他評価すべき事項	<p>今年度途中で委員会に新メンバー 2 名を公募によって補充できたことが、小委員会の一層の活性化につながるものと期待される。</p>